

令和5年度 当初予算 (案)

主な事業の説明書

企画部

款	項	目	大	事業	ページ
2	1	3	10	広報活動費	2- 1
2	1	3	11	シティプロモーション戦略事業費	2- 2
2	1	10	13	「ふるさと納税制度」関連経費	2- 3
2	1	10	27	地方創生推進経費	2- 4
2	1	10	34	若者チャレンジ応援プロジェクト事業費	2- 5
2	1	10	42	むすび・サポート事業費	2- 6
2	1	10	43	国内友好都市交流事業費	2- 7
2	1	10	44	国際交流事業費	2- 8
2	1	11	14	地域交通対策事業費	2- 9
2	1	11	18	南小学区コミュニティセンター改築事業費	2- 10
2	1	11	23	移住・定住推進事業費	2- 11
2	1	11	26	彩色千輪プロジェクト事業費（地域拠点利活用活性化事業）	2- 12

※部毎に款・項・目・大事业の順番とする。

事 業 説 明 書

2 款 1 項 3 目 10 事業

継 続	SDGs 関連目標			課所名： 企画部 広報広聴課
------------	--------------	---	---	----------------

『事業名』 **広報活動費**

【R5年度】	35,362 千円	【R4年度】	31,397 千円	【増減額】	3,965 千円
--------	-----------	--------	-----------	-------	----------

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
13			1,534	33,815

※市広報広告掲載料ほか

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

【目的】 広報活動を推進し、市民の理解と信頼に基づく公正な行政情報を届けることにより、開かれた市政の推進に資する。

【目標】 広報紙の発行やホームページ、コミュニティFMなどの媒体の活用により、市の施策や事業に関する情報を分かりやすくかつ正確に提供する。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- ・市広報紙は、平成30年度に実施した市民による市政評価の結果や、取材先等での市民の声、評価などから、訴求力のある写真を軸にした視覚に訴える紙面づくりが市民におおむね好意的に受けとめられており、行政情報を入手する中心的なツールとなっている。
- ・コミュニティFMは、地域の話題のほか行政情報や緊急時の即時情報などの発信に努めており、地域に特化した内容で広報紙を補完するツールとなっているものと捉えている。
- ・広聴業務では、ホームページを通じて年間約400件ほどの問い合わせをいただいているほか、コロナ禍における困りごとや要望を伺うため、広報紙面や専用のアンケートフォームを設けアンケート調査を実施しており、その結果を各課と共有し、生活に寄り添った施策、市民が求めている施策の検討・実施へとつなげている。
- ・ホームページは構築から4年が経過しており、市民向けの行政情報のほか、市外からの閲覧者に市の魅力を効果的に伝えるページづくりに努め、年間約378万回の閲覧をいただいている。

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・広報活動は広報紙を主軸としたうえでホームページやコミュニティFMなど媒体の特性を生かしてそれぞれを補完しながら内容をより分かりやすくできるような努める必要がある。
- ・ホームページについては、「必要な情報にたどり着きづらい」「探しにくい」などの声も寄せられていることから、より利用者の立場に立ったページづくりに努めるとともに、スマート自治体への転換に向けインターネット上の市役所窓口として全面的な更新を検討していく必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【今後の方向性】
 市民になじみのある広報紙の信頼性を確保しつつ、広報紙としてのメリットを最大限生かした五感に訴えかけるような紙面づくりに努めるほか、情報量の制限や即時性に欠けるなどのデメリットをコミュニティFMやインターネット媒体で補完しながら、引き続き見やすく、わかりやすい広報活動を推進していく。
 また、ホームページについては、各課が発信する情報のページ公開承認時のチェック体制を強化するなど、利用者が必要とする情報にたどり着きやすく、かつ、わかりやすいページづくりに努めるとともに、全面リニューアルに係る業務委託について債務負担行為を設定し、令和6年10月の公開を目指して新たなホームページの構築を進める。

【令和5年度事業の概要】

- 広報だいせん日和の編集発行 25,792千円 (編集発行に係る374千円含む)
 毎月1日発行 平均30ページ (うち広告1ページ) 31,100部 カラー4色刷り
 ※R4年度 平均30.3ページ (うち広告1ページ) 31,200部
- コミュニティFM行政情報番組の放送 7,920千円
 番組の制作および放送の委託 [行政情報番組として10分番組を3回/日 (平日のみ)
 生ワイド番組中の原稿生読み (必要に応じて随時)
- 市ホームページ管理システム保守 1,650千円
- 市ホームページ管理システム構築業務委託 (債務負担行為の設定 23,089千円)

事 業 説 明 書

継 続	SDGs 関連目標			2 款 1 項 3 目 11 事業
------------	--------------	---	---	-------------------

課所名：企画部 広報広聴課

『事業名』 **シティプロモーション戦略事業費**

【R5年度】	7,499 千円	【R4年度】	6,169 千円	【増減額】	1,330 千円
--------	----------	--------	----------	-------	----------

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			7,499	

※ふるさと応援基金繰入金

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

市民や企業などとの協働により「大仙らしさ」「大仙の魅力」となる新たな価値を創出し、共有を図りながら地域ブランドとして磨き上げ、市内外に広くプロモーションを展開することで本市への関心を喚起し、人、モノ、投資、情報など多様な資源を呼び込むとともに、一連の取り組みを通じて市民の市に対する誇りや愛着の醸成を図り、当事者である市民が主体的にまちづくりに関わる環境づくりを進め、持続可能なまちづくりにつなげていく。
2. D o（実行：これまでの実績と成果）
 - ・市民や大仙ファンがライフスタイルにあわせて情報を収集することができ、かつ非常時にも適時的確に収集できるよう、主要なSNSそれぞれの特性を生かしながら多言語での発信などにも取り組んでおり、令和4年12月末現在の市公式SNSの登録数の総計は約16,000アカウントとなっている。
 - ・令和2年度には、市民の皆様から大仙市の良さを「大仙市らしさ」として改めて発見し、広く認知していただくことを目的に、市民や大仙ファンが自らのSNSアカウントで市の魅力を発信する「だいせん宣伝部」を立ち上げている。令和4年12月1日現在、45人が部員として活動しており、そのフォロワー数の累計は約38,500アカウントとなっている。
3. C h e c k（評価：問題と課題）
 - ・市民との共創により「大仙らしさ」「大仙の魅力」をより一層訴求していくためには、まずは市全体で共有できる地域イメージの確立が重要であり、だいせん宣伝部員の増員に向けた取り組みのほか宣伝部の活動を活発化させる仕組みづくりなど、市に対する市民の誇りや愛着につながるような事業に引き続き取り組んでいく必要がある。
 - ・シティプロモーションを効果的に展開していくため、ターゲットを明確化し、それに合わせたアプローチ方法を検討していく必要がある。
4. A c t（改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要）

【今後の方向性】
市民や企業との協働により地域の新たな価値となる資源を掘り起こし、大仙市の魅力として内外に広く発信できる仕組みづくりに引き続き取り組み市民の市に対する誇りの醸成を図るとともに、市の魅力や情報がより多くの人々の目に届くよう、効果的なプロモーションの方法を探っていく。

【令和5年度事業の概要】

 - 市のPR強化事業 7,293千円【拡充】
 - ①美味しいお米の産地大仙市PR (5,801千円)
 - ・首都圏新聞、WEB等広告
 - ・特産品PR強化キャンペーン など
 - ②SNSによる発信情報の拡充 (1,045千円)
 - ・多言語情報発信事業
 - ・LINE、Facebook公式アカウント運営事業
 - ・インスタグラム事業
 - ③看板等活用事業 (447千円)
 - ・秋田空港電照看板を活用した市のPR
 - シビックプライド（市民の市に対する誇り）の醸成 206千円
 - ・だいせん宣伝部活動支援
 - ・ふるさとCM制作事業

事 業 説 明 書

継 続

SDGs
関連目標



2 款 1 項 10 目 13 事業

課所名：企画部 移住定住促進課

『事業名』 「ふるさと納税制度」 関連経費

【R5年度】 326,545 千円 【R4年度】 279,994 千円 【増減額】 46,551 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				326,545

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

ふるさと納税制度の周知及び浸透を図ることで、大仙市をふるさととし、応援して下さる方々から広く寄附を募り、大仙市のPRの促進と寄附金の受入増を目指す。また、ふるさと納税制度を活用した地域経済の活性化のほか、大仙市を継続的に応援して下さる方々の増加を図る。

【目標】 寄附件数：24,000件・寄附金額：600,000千円

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

ふるさと納税制度運用開始以降、下表のとおり寄附件数、寄附金額ともに増加している。

特に、令和3年度は、ふるさと納税受付サイトの追加(2サイト)や返礼品の充実に取り組んだ結果、前年度比1億円以上の寄附金額増加に繋がっている。

■ふるさと納税受入実績 (単位：件・円)

区分	H20~H29	H30	R1	R2	R3	合計
寄附件数	987	2,410	5,602	6,666	9,915	25,580
寄附金額	103,449,473	83,605,000	160,032,000	162,060,500	268,730,500	777,877,473

3. C h e c k (評価：問題と課題)

ふるさと納税制度について、返礼品は「寄附金額の3割以下」の「地場産品」、寄附の募集に係る経費は「寄附金額の5割以下」とする国が定めた基準があるため、これらの基準を満たす魅力的な返礼品を取り揃えらるとともに、可能な限り事業費を圧縮する必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【今後の方向性】

- ・さらなる寄附金額の増加に向け、全国有数の米の産地として米を中心に返礼品の充実を図る。
- ・ワンストップ特例申請のオンライン受付など、寄附者の利便性向上に繋がる取組を積極的に進める。

【令和5年度事業の概要】

- ・ふるさと納税受付サイト「ふるさとチョイス(ふるぽ・au PAY)」「さとふる」「楽天」「ふるさとぷらす」「ふるなび」「JRE MALL」での寄附の受付

(単位：千円)

科 目	内 容	予算額
10-5 印刷製本費	・《新規》返礼品発送用梱包資材貼付シール及び同封チラシ印刷費	477
10-6 消耗品費等	・返礼品一覧及び寄附金活用事業報告書等カラースタンプ代	119
11-3 郵便料	・ワンストップ特例申請書(寄附者→市)郵便料 ・ワンストップ特例申請受付・審査業務委託先への申請書郵便料	1,003
11-6 広告料	・ふるさと納税受付サイトでの広告料	2,000
12-1 委託料	・ふるさと納税受付サイト利用料 ・寄附受付等委託料、返礼品代及び返礼品送料 ・クレジットカード等決済手数料 ・ワンストップ特例申請書受付・審査業務委託料 ・《新規》ワンストップ特例申請オンライン受付システム利用料 ・《新規》返礼品梱包資材製作委託料	322,946

事 業 説 明 書

2 款 1 項 10 目 27 事業

拡 充	SDGs 関連目標				課所名： 企画部 総合政策課
------------	--------------	--	--	--	----------------

『事業名』 **地方創生推進経費**

【R5年度】 **1,056 千円** 【R4年度】 **431 千円** 【増減額】 **625 千円**

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				1,056

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

「第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のもと、選択と集中により実効性のある施策を推進するとともに、「SDGs未来都市計画」に基づき、SDGsの達成に向けた市全体の機運醸成を図りながら、市民や企業、団体など多様な主体との連携を進め、人口減少の抑制や地方創生の実現、そして未来に向けて持続発展するまちづくりを推進していく。

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- 令和元年度に「第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定と「大仙市人口ビジョン」の改訂を行い、地方創生推進交付金や企業版ふるさと納税などを積極的かつ効果的に活用しながら、花火産業構想をはじめ農業と食に関する活性化基本構想や健康まちづくりプロジェクト、若者チャレンジ応援プロジェクトなど、地域の活性化や課題解決を通じた地方創生に取り組んでいる。
- 令和4年度には「大仙市SDGs推進方針」に基づき推進してきたSDGsの取組をさらに前に進めるため、国の「SDGs未来都市」の選定を受けたところであり、SDGsのさらなる理解促進を図りつつ、その理念を各種施策に反映し、地方創生に向けた取組を加速することとしている。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

- 令和2年の国勢調査によると、本市の人口は社人研推計よりも緩やかになったものの、依然として減少傾向を示している。特に年少人口が同推計を上回る減少となっているほか、20代を中心とした若年層、とりわけ女性の大規模な転出超過が続くなど少子高齢化が加速しており、移住定住の決断にあたり重要な要素である「くらし」「しごと」の環境づくりなど「若者に選ばれるまちづくり」に重点化していく必要がある。
- 加えて、コロナ禍をきっかけに人々の価値観や行動、社会システムが大きく変化する中、DXやGXなどの新たな潮流への対応も必要となっており、時代の変化やニーズを的確に捉えつつ、ワイズペンディングの視点で財源移動も含めた施策の「選択」と「集中」を図りながら、未来を見据えたより効果的な投資を進めていく必要がある。
- 経済・社会・環境の三側面から包括的に取り組むSDGsは、世界が直面する危機を乗り越え、より良い未来を目指す羅針盤となるものであり、地球規模で取り組んでいくべきものであるが、令和4年度の調査によると、本市の認知度は全国平均を上回る77.8%となる一方で、内容まで知っている方は36.3%に止まっていることから、さらなる理解促進を図りながら一人ひとりの行動変容を促していく必要がある。

4. A c t（改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要）

【今後の方向性】

本市が直面する人口減少をはじめとした諸課題への対応や持続可能なまちづくりの推進にあたり、SDGsの視点を取り入れることで施策の全体最適化が図られ、地域課題解決の加速化が期待されることから、SDGsのさらなる理解促進と行動変容を促しつつ、多様な主体との連携のもと、地域の自主性や自立性を高めながら、持続的に発展するまちづくりにつなげていく。

【令和5年事業の概要】

○大仙市総合戦略推進会議開催経費 144千円
各施策の効果検証や国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を受けた所要の改定を行うため、大仙市総合戦略推進会議を開催。

○SDGs未来都市推進事業【新規】 784千円

- ・SDGs取組宣言プロジェクトの実施
SDGsの達成に向けた市民や企業、団体の取組を募集し、広報やホームページなどを通じて広く周知することで市全体の機運醸成を図るとともに、各主体の自主的かつ積極的な行動を促していく。
- ・SDGsシンポジウムの開催 ・東北SDGs未来都市サミット・シンポジウムへの参加
- ・その他普及啓発活動

○地方創生に係る施策の推進 128千円

- ・地域の食と食文化を通じた豊かなふるさと秋田づくりに関する連携協定に基づく取組を実施

事 業 説 明 書

2 款 1 項 10 目 34 事業

拡 充

SDGs
関連目標



課所名：企画部 若者チャレンジ推進室

『事業名』 **若者チャレンジ応援プロジェクト事業費**

【R5年度】 7,058 千円 【R4年度】 9,459 千円 【増減額】 △ 2,401 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			2,000	5,058

※ふるさと応援寄附金（GCF分）

1. Plan（計画：事業の目的及び目標）

様々な分野において夢や希望に向かってチャレンジする若者や、地域の課題解決・活性化のため行動を起こそうとする若者を総合的にサポートするため、若者の挑戦を応援する「土壌づくり」と、挑戦する若者の創出・育成に向けた「人材づくり」を進め、結果、チャレンジする若者が次々と生まれる「チャレンジの好循環」を創出しながら、地域の元気創出や若者の市内定着につなげていくことを目的とする。

2. Do（実行：これまでの実績と成果）

■だいせんLabo

単位：人

項目	実績										見込	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月～3月	合計	
来訪者延べ人数	68	39	51	68	8	33	65	99	19	150	600	
相談者延べ人数	11	17	22	21	6	3	10	18	2	37	147	

■若者チャレンジ応援補助金

種 別	件数	対象事業名	備考
チャレンジタイプ (GCF活用)	1件	若手農業者が挑戦する「トータルアグリカルチャー」プロジェクト	GCF実施期間 10.1～12.31 寄附額736千円
課題解決タイプ (GCF活用)	1件	大仙市の発酵文化をいかしたKOJICLEARの国内外展開事業	
ユースチャレンジタイプ	2件	修英“夢”チャレンジプロジェクト 店舗出店×販売促進プロジェクト	秋田修英高校の有志 大曲高校の有志

※GCFとは
自治体が行うクラウドファンディングのことで、ふるさと納税の制度を活用して実施するもの

3. Check（評価：問題と課題）

- だいせんLaboの周知強化
一層の浸透を図るため、今後も様々な機会を通じて周知する必要がある。
- 若者チャレンジ応援補助金の運用改善
新規提案事業の創出や寄附金向上に向けた運用の見直しが必要である。
- 女性が活躍できる場の創出
様々な分野に挑戦する女性への支援が必要である。
- 大学生を呼び込み、活動できるための環境整備
行動力や情報発信力を持つ大学生が大仙市をフィールドとして活動するための仕掛けづくりが必要である。
- 大学×市内高校連携による取組の推進
将来を担う人財の創出・育成の取組として、広く展開する必要がある。

4. Act（改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要）

【今後の方向性】

若者を応援する「土壌づくり」「人材づくり」を進め「チャレンジの好循環」を生み出す取組を展開する。

【令和5年度事業の概要】

事業内容	既存/新規	概要
土壌づくり	既存	・だいせんLaboの運営(2,332千円) ・若者チャレンジ応援補助金事業(3,977千円)
	新規	・大学生等旅費支援事業(179千円) ⇒学生の市内調査活動等に伴う移動経費を支援
人材づくり	既存	・高校生×秋田大学マーケティングワークショップ事業(210千円)
	新規	・女性活躍のためのコミュニティ形成促進事業(138千円) ⇒SNS等による情報発信や勉強会等の開催 ・起業・創業者との交流事業(65千円) ⇒起業希望者向け交流会等の開催
チャレンジの好循環	既存	・市民向けセミナー開催事業(80千円) ・各種媒体を活用した情報発信
	新規	・補助金活用事例発信事業(77千円) ⇒補助金の概要、事例等をまとめたチラシの作成・配布

事 業 説 明 書

2 款 1 項 10 目 42 事業

拡 充	SDGs 関連目標	5 ジェンダー平等 を実現しよう	11 持続可能な まちづくりを	17 パートナーシップで 目標を達成しよう	課所名： 企画部 総合政策課
-----	--------------	------------------------	-----------------------	-----------------------------	----------------

『事業名』 **むすび・サポート事業費**

【R5年度】 10,453 千円 【R4年度】 13,332 千円 【増減額】 △ 2,879 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	5,200			5,253

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

結婚を望んでいる独身男女が交流するきっかけとなる多種多様な出会いの場を創出し、民間ノウハウも活用した多角的なアプローチによりマッチングを促進するとともに、新婚生活に対する支援を通じて婚姻に伴う経済的な負担を軽減することにより希望の実現を後押しし、婚姻数や出生数、移住・定住の増加につなげる。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

○令和元年9月に設置した子育て支援制度等検討会議において制度を大幅に見直し、令和2年度に新制度をスタート
 ○令和3年度は新たに「あきた結婚支援センターへの入会登録料助成」を開始
 ○令和4年度には「出会い・結婚応援イベント助成金」の要件を拡充

3. Check (評価：問題と課題)

○ 1月から12月までの累計婚姻届出件数は、前年度の8割にも満たない危機的な状況となっている。婚姻と出生が密接に結びついている日本においては、将来への深刻な影響が懸念されるところであり、制度の抜本的な見直しと、より効果の高い事業への重点化が必要となっている。

○ 社人研の「出生動向基本調査」(R4.9)によると、18～34歳の未婚者で「いずれ結婚するつもり」と考えている人の割合は男女とも8割を超えている一方で、未婚率は上昇傾向で推移していることから、情報提供の強化や出会いの機会創出などを通じて結婚の希望実現に向けた早期の行動を促していく必要がある。

○婚姻届出件数の推移

	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
R1	22	18	18	16	50	19	19	14	25	11	36	31	279
R2	12	25	16	20	12	23	19	17	15	9	40	23	231
R3	14	25	27	8	22	19	23	11	23	5	28	15	220
R4	17	20	22	12	16	9	9	2	11	15	23	12	168

未婚率 男性 H27-R2

未婚率 女性 H27-R2

4. Act (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【今後の方向性】

結婚は個人の自由な意志に基づくものであることを前提に、まずは「川上対策」として重要な出会いの機会創出に取り組むこととし、恋人等のいる未婚男女の10人に1人がインターネットサービス（SNSやマッチングアプリ等）を介して交際相手と知り合っている（社人研「出生動向基本調査」）などのエビデンスに加え、コロナ禍による行動変化も念頭に、県や他自治体、企業等との連携を進め、民間のノウハウも活用しながら多角的にアプローチしていく。また、出会いの機会を求める方やサポート（応援）したい方、地域、職場など、より多くの方々に情報が行き届くようPRを強化し、結婚を希望する方を地域全体で応援する機運醸成と環境づくりにも取り組んでいく。

【R5年度事業の概要】

①結婚新生活支援事業(内閣府地域少子化対策重点推進交付金事業) 7,824千円
 ○対象世帯…大仙市に住所を有し、婚姻日における夫婦双方の年齢が39歳以下かつ世帯所得が500万円未満の世帯【拡充】
 ○補助対象…婚姻に伴う住宅取得費用、住宅リフォーム費用、住宅借借費用、引越費用等
 ○補助上限額…1世帯あたり最大30万円（夫婦共に29歳以下の場合は最大60万円）

②出会い・結婚応援イベント創出事業 1,300千円（リーフレット作成費、結婚サポーター等謝礼を含む）
 i) 出会いイベント助成金 950千円
 出会いの場の創出や結婚を促進するイベントを行う団体等に対し15万円を上限に助成
 【拡充】・県の結婚サポーターや市内企業が連携して実施するイベント等を対象事業に追加
 ・事業費の範囲内において他団体の補助との併用可能
 ii) (仮) 恋活交流イベント実証委託【新規】 250千円
 iii) 連携協定企業等と連携したマッチングイベント開催【新規・ゼロ予算】

③あきた結婚支援センター負担金 669千円
 i) あきた結婚支援センター入会登録料助成…入会登録料10,000円（登録期間2年）を支援（370千円）
 ii) 構成団体負担金（299千円）

事 業 説 明 書

継 続

SDGs
関連目標



2 款 1 項 10 目 43 事業

課所名：企画部 交流振興課

『事業名』 **国内友好都市交流事業費**

【R5年度】 13,302 千円 【R4年度】 12,374 千円 【増減額】 928 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			13,302	

※地域振興基金繰入金 12,802

※宮崎市交流事業負担金 500

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

友好交流都市協定を締結している神奈川県座間市及び岩手県宮古市、有縁交流提携を調印している宮崎県宮崎市との交流・連携を図り、相互に発展することを目指す。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

■神奈川県座間市(友好交流協定締結 平成27年(2015年)3月21日)

事業名	開始年度	交流回数	直近の主な交流内容
青少年交流 (受入・派遣)	H26	受入5回	R4:両市スポ少野球選抜チームと宮古市選抜チーム(各2試合)が交流試合を行った
	R1	派遣1回	R1:両市スポ少野球選抜チームが交流試合(2試合)を行った
市民団体交流 (受入・派遣)	H28	受入4回	R1:吹奏楽団体等が交流を行った(交流した団体を翌年度に派遣)
	H29	派遣3回	R1:防災団体等が交流を行った(前年度に交流した団体を派遣)

■岩手県宮古市(友好交流協定締結 令和元年(2019年)10月5日)

事業名	開始年度	交流回数	主な交流内容
市民招待 (受入・派遣)	H30	3回※	宮古市の子育て世帯を大曲の花火に招待し花火を鑑賞していただいた
	R4	1回	大仙市の子育て世帯を本州最東端宮古の海に招待し地引き網体験等を行った

※H23年度からH29年度までは「大曲の花火」への東日本大震災の被災者招待事業として、被災者を招待していたもの

■宮崎県宮崎市(有縁交流提携調印 平成13年(2001年)6月3日)

事業名	開始年度	交流回数	直近の主な交流内容
青少年交流(受入・派遣)	H9	受入4回	R1:ホームステイ・スキー体験・萬松寺へ墓参等の交流を行った
	H8	派遣6回	R4:中学生交流(学校紹介等)・サーフィン体験等の交流を行った

※R4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためホームステイを中止しホテル宿泊とした。

■上記の他、それぞれの市の祭り・イベントへの参加や花火の打ち上げ等により本市をPRしている

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・交流事業実施による効果を市民に伝える取り組みを進める必要がある。
- ・民間団体による自主的な相互交流に繋がる取り組みを進めていく必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【今後の方向性】

各都市との協定等に則し、文化、スポーツ、教育及び経済など幅広い分野での持続的な交流を促進するとともに、今後も相互の発展に寄与する交流事業を各部署と連携して実施する。

【令和5年度事業の概要】

■神奈川県座間市との交流 (予算額 3,800 千円) 下記以外:大風まつり・市民ふるさとまつりでの花火打上、物産販売の実施

事業名	内容	時期(予定)
青少年交流(派遣)	市内のスポ少チームと座間市のスポ少チームが、試合等とおした交流を実施	10月

■岩手県宮古市との交流 (予算額 3,227 千円) 下記以外:市内イベントでの花火打上、物産販売の実施

事業名	内容	時期(予定)
大仙市民招待(本州最東端・宮古の海)	市内の小学生と親子が宮古市を訪問し、様々な宮古の海を体験	7月
宮古市民招待(大曲の花火)	子育て世代の宮古市民を招待し、大曲の花火の鑑賞	8月
青少年交流(派遣)【新規】	中学生野球選抜チームが、宮古市のチームと試合等とおした交流を実施	秋季

■宮崎県宮崎市との交流 (予算額 5,654 千円) 下記以外:神宮大祭パレード参加・一ツ瀬川花火大会での花火打上の実施

事業名	内容	時期(予定)
青少年交流(受入)	宮崎市の中学生を受け入れ、スキー体験等を実施	冬季
プロ野球宮崎キャンプ体験	市内中学生が宮崎市で行われるプロ野球キャンプの見学等を実施	2月

■その他の事業 (予算額 621 千円)

交流都市産品販売促進事業、民間団体の自主的な相互交流を促す交流促進事業費補助金

事 業 説 明 書

継 続

SDGs
関連目標



2 款 1 項 10 目 44 事業

課所名：企画部 交流振興課

『事業名』 **国際交流事業費**

【R5年度】 **3,740 千円** 【R4年度】 **1,310 千円** 【増減額】 **2,430 千円**

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
517				3,223

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

友好関係にある国際都市等との交流を促進し、相互の発展を目指すとともに、市内在住外国籍住民等への支援の充実を図る。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

■韓国唐津市(友好交流協定締結 平成19年(2007年)8月26日)

事業名	開始年度	交流回数	主な交流内容
青少年交流 (派遣・受入)	H20	派遣5回	市内中学生がホームステイ・学校見学等で唐津市の中学生と交流を行った
	H21	受入4回	唐津市の中学生がホームステイ・日本文化体験等で市内中学生と交流を行った
綱引き交流 (来訪・訪韓)	H14	来訪5回	機池市綱引き保存会が刈和野の大綱引き及び関連行事に参加し交流を行った
	H16	訪韓6回	刈和野大綱引保存会が機池市綱引き祭り及び関連行事に参加し交流を行った

※上記の他、大曲の花火への唐津市長等招待事業を行っている

■台湾新北市

事業名	開始年度	交流回数	主な交流内容
ランタンフェスティバル参加	H26	参加3回	平溪ランタンフェスティバルで太田の火まつりの紙風船を上げ大仙市をPRした
	R元	参加1回	新北元宵ランタンフェスティバルで太田の火まつりの紙風船を展示し大仙市をPRした ※紙風船の展示のみは、2022年、2023年の2回

■その他の事業

事業名	主な事業内容
大仙市災害時外国人支援ボランティア	ボランティアを募集しやさしい日本語等の研修をとおして人材の育成を図った

3. Check (評価：問題と課題)

- ・国際情勢の変化、新型コロナウイルスのような感染症が世界に蔓延することによる渡航の禁止、台風などの自然災害による往来不能などが事業の実施に大きく影響する。
- ・海外からの青少年受入時のホストファミリーの確保が難しくなっている。

4. Act (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【今後の方向性】

友好交流都市である韓国唐津市との協定に則り、今後も相互の発展に寄与する事業を各部署と連携して実施するとともに、台湾新北市中和区との交流促進に向けて取り組んでいく。

【令和5年度事業の概要】

■韓国唐津市との交流 (予算額 683 千円)

事業名	内容	時期(予定)
青少年交流事業(受入)	唐津市の中学生を大仙市で受け入れ、市内中学生と様々な交流を実施	8月

※その他：大曲の花火に唐津市長を招待

■台湾新北市との交流 (予算額 1,917 千円)

事業名	内容	時期(予定)
新北元宵ランタンフェスティバル及び教育交流協議	太田の火まつりの紙風船を新北元宵ランタンフェスティバルに展示し大仙市のPRを図るとともに教育交流開始に向けた協議を実施	2月

■だいせん外国人相談窓口 (予算額 1,035 千円)

事業名	内容	時期(予定)
外国人受入環境整備交付金事業	相談員を雇用し外国人相談の充実を図る(交付金活用)	通年

■その他の事業 (予算額 105 千円)

国慶節レセプション参加、大仙市災害時外国人支援ボランティア事業

事 業 説 明 書

2 款 1 項 11 目 14 事業

継 続

SDGs
関連目標



課所名： 企画部 地域活動応援課

『事業名』 **地域交通対策事業費**

【R5年度】 141,318 千円 【R4年度】 137,195 千円 【増減額】 4,123 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	10,108		243	130,967

※市町村有償運送使用料 ほか

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

第4期交通計画に基づき、市民の「利用しやすさ」「暮らしやすさ」を軸とした公共交通ネットワークの形成を目指す。

【目標】 市交通システム利用者数 81,000人 (R3年度実績 63,234人)

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

- ・地域間をつなぐ幹線として路線バスを維持しながら、これに連結する地域内の支線としてコミュニティバスや乗合タクシー等を市が運行することで、交通網の維持・確保に努めてきた。
- ・地域公共交通の再構築を進める中で、アンケート調査等により地域のニーズを把握し、運行内容の改善を図るとともに、高齢者等を対象とした交通助成券のりきっぷ事業の実施により、利用を促進してきた結果、市民による市政評価における満足度は高くなっている。

【R3実績】 循環バス12,581人、コミュニティバス33,405人、乗合タクシー11,194人、市民バス1,095人
区域型乗合タクシー620人、乗合自動車4,339人

3. Check (評価：問題と課題)

- ・コロナ禍で利用者数の減少が続く中、ウクライナ情勢等の影響による燃料費高騰などにより、運行費用が増加している。加えて、民間事業においては、職の多様化や希望職種の変化に伴う運転手不足等により、事業継続が困難になるなどの問題も顕在化してきている。
- ・路線バスの利用者数は減少傾向で推移しており、代替交通の検討が必要になる可能性が想定されるものの、代替交通や地域内支線の運行、高齢者等の移動支援に係る経費が増加傾向にあるため、財源の確保が課題である。

4. Act (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【今後の方向性】

第4期交通計画に基づき、交通弱者をはじめとした市民の移動手段を確保するため、引き続き事業の検証と改善を行いながら、各地域の実情に合わせた交通システムの運行と移動支援策を実施する。

【令和5年度事業の概要】

- ①コミュニティバスの運行 56,336千円 (利用料金200～700円 (100円刻み))
市が実施主体となり、羽後交通が運行主体となる長信田線、杉山田線、南外線の運行を実施。
- ②循環バスの運行 13,127千円 (利用料金200円)
中心市街地及び周辺の公共施設を順・逆回りの2ルートで5便ずつ運行。
- ③乗合タクシーの運行 15,002千円 (利用料金500円 (乗合時400円))
大曲、中仙、協和、仙北、太田地域において路線や時刻を定め、予約制で運行。
- ④乗合タクシードアツードア型の運行 2,863千円 (利用料金700円)
神岡、西仙北、南外地域で運行。自宅付近から乗降可能。
- ⑤市民バスの運行 3,063千円 (利用料金200円)
市町村有償運送により、市が自ら実施するもの。西仙北、南外地域で運行。
- ⑥乗合自動車利用助成の実施 2,957千円 (利用料金300円)
タクシー会社が独自に実施。中仙地域で5路線を運行。運賃の内、300円を超えた額を助成。
- ⑦のりきっぷ 47,043千円
75歳以上の方または免許返納者のうち希望する方に対し、バスやタクシー等で使用できる助成券を交付。R5年度は高齢者、免許返納者それぞれ5,000円分を交付。
- ⑧その他経費 927千円
大仙市地域公共交通活性化再生協議会負担金、停留所の維持管理費等、公共交通システム運行に係る諸経費。

事 業 説 明 書

2 款 1 項 11 目 18 事業

新 規

SDGs
関連目標



課所名： 企画部 地域活動応援課

『事業名』 **南小学区コミュニティセンター改築事業費**

【R5年度】 **49,176 千円** 【R4年度】 **0 千円** 【増減額】 **49,176 千円**

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		46,100	2,467	609

※公共施設適正管理基金繰入金

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

【目的】 南小学区コミュニティセンターは、南外地域南檜岡地区の中核をなす集会施設であり、地区の各種会合や住民のスポーツ活動の場、災害時の避難所などとして地域に親しまれてきた施設であるが、昭和49年の建築から48年が経過し老朽化が著しいことから、避難所機能の向上を図るとともに、これまで以上に地域住民の自主的な地域づくり活動を促進するため、人口減少の進行も見据えたコンパクトかつ機能的な施設に更新するものである。

なお、本事業は、南外地域における類似施設の統廃合と集会機能の集約を伴うものであり、大仙市公共施設等総合管理計画に基づく公共施設適正配置のモデルケースとなるものである。

【目標】 令和6年度に改築工事、令和7年度の開館を目指す。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

南小学区コミュニティセンターは、これまで多くの住民に利用され、地域に定着した施設として活用されてきたところであり、現在もスポーツ活動を中心に年間6千人を超える利用があるほか、平成29年7月の豪雨災害時には34世帯89人が避難するなど、避難所としての機能も果たしている。

【令和元年度～令和3年度実績 利用者数】

年 度	R 1	R 2	R 3
開館日数	308日	282日	300日
利用人数	7,547人	6,316人	6,293人
1日当たり 利用者数	24.5人	22.4人	21.0人

3. Check (評価：問題と課題)

公共施設等総合管理計画に基づき、類似施設の機能集約を図りつつ、地域の意向も伺いながら、人口減少の進行を見据えたコンパクトかつ機能的な施設づくりを進める必要があるが、現下の建設資材の高騰等により工事費の上昇が懸念される。

4. Act (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【今後の方向性】

実施年度	令和5年度				令和6年度				令和7年度	
	4月-6月	7月-9月	10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月	10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月
基本設計・実施設計	5月中旬～3月末日									
地質調査	5月中旬～8月末日									
解体工事		8月～11月末日								
建築工事					6月下旬～3月中旬					
設計監理・工事管理					6月中旬～3月下旬					
オープン									5月オープン予定	

【令和5年度事業の概要】

令和5年度は改築施設の設計と既存施設の解体を行う。

- ・設計業務委託 15,253千円
- ・地質調査業務委託 9,328千円
- ・解体工事 23,986千円
- ・浄化槽汚泥引抜清掃委託 149千円
- ・各種手数料 460千円
- 計 49,176千円

事 業 説 明 書

2 款 1 項 11 目 23 事業

拡 充

SDGs
関連目標



課所名：企画部 移住定住促進課

『事業名』 **移住・定住推進事業費**

【R5年度】 23,420 千円 【R4年度】 16,445 千円 【増減額】 6,975 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	2,400	13,600	24	7,396

※建物貸付収入

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

「花火のまち大仙市」移住・定住促進アクションプラン（以下「プラン」という）に基づき、移住・定住にあたっての検討から移住後までの各段階に応じた取組を進めることで移住者数の増加を図り、大仙市人口ビジョンに掲げる目指すべき将来人口の達成を目的とする。

【目標】令和5年度移住者数 446 人

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- ・本市への移住・定住促進に関する具体的な行動計画として、平成28年度に第1期プラン、令和元年度に第2期プランを策定し、様々な取組を実施してきた。
- ・令和4年度で第2期プランの計画期間が終了することから、課題や現在の社会情勢等を踏まえた第3期プランを令和5年3月に策定予定としている。

■移住者数の推移

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4(12月末)
移住者数	8人	13人	47人	76人	66人	405人	382人	226人

※移住者の定義について、H27～R1は「NPO法人秋田県移住定住総合支援センターに登録をして本市に移住した方」と「市の移住支援制度を活用した方」の合計とし、R2以降は「本市に5年以上居住する意思がある方」としている。

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、地方移住への関心が高まっている機会を逃すことなく、移住・定住に関する取組をより一層推進していく必要がある。
- ・移住希望者への支援だけではなく、移住後の定住支援も充実させる必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【今後の方向性】

- ・移住者数の増加に向け、関係各課室と連携して第3期プランに掲げる様々な取組を実施する。
- ・若者や子育て世帯の移住・定住を積極的に促進する。
- ・移住前の相談にとどまらず、移住後の悩み等の相談にも対応できる体制を構築する。

【令和5年度事業の概要】

- ①《拡充》住宅取得支援及び若者・子育て世帯家賃支援の実施
- ②《拡充》秋田県と県内市町村との共同による移住・就業支援の実施
- ③《新規》雪国暮らし支援制度の創設
- ④《継続》移住希望者の要望に応じたオーダーメイド型移住体験や子育て世帯向け移住体験の実施
- ⑤《継続》魅力体験住宅「y o u k o s o (ようこそ)」の運営
- ⑥《継続》移住促進無料職業紹介所の運営及び移住コーディネーターによる就業支援・相談対応
- ⑦《継続》女性の視点で大仙市の魅力を考える「女性が住みたくなるまちづくり事業」の実施
- ⑧《継続》首都圏での移住相談会等の実施

事 業 説 明 書

2 款 1 項 11 目 26 事業

継 続

SDGs
関連目標



課所名：企画部 地域活動応援課

『事業名』 **彩色千輪プロジェクト事業費（地域拠点利活用活性化事業）**

【R5年度】 **4,823 千円** 【R4年度】 **1,252 千円** 【増減額】 **3,571 千円**

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				4,823

1. Plan（計画：事業の目的及び目標）

地域づくりの主役である地域住民と行政との協働により、地域の課題解決や活性化に向けた取り組みを推進するとともに、その活動拠点となる施設やエリアを選定し、地域一体となった主体的かつ積極的な活動を促すことで地域活力の維持向上を図り、市全体の活性化につなげる。

2. Do（実行：これまでの実績と成果）

- ・平成28年度から各地域がそれぞれの特色を活かした「地域の魅力再発見事業」を展開し、市民との協働による地域づくりの推進と、地域コミュニティの活性化を図ってきた。
- ・令和3年度からは、地域づくりに向けた取り組みをさらに加速するため、地域拠点を活用した活性化をテーマに、地域が一体となって取り組む彩色千輪プロジェクト事業を実施している。

3. Check（評価：問題と課題）

活性化策には様々な実施形態が想定されているが、住民・団体等が担う取り組みについては、自主的かつ継続したものとなるよう十分な検討を促すとともに、その取り組みが地域全体に波及するような仕組みづくりを行っていく必要がある。

4. Act（改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要）

【今後の方向性】

- ・各地域において、地域が抱える課題についての共通認識を持ち解決策に取り組む。
- ・毎年度、地域協議会において事業の評価・検証を行い、翌年度の事業実施につなげていく。

【令和5年度事業の概要】

各地域が策定した全体構想を基に、活性化の方向性や目標を定め、拠点を活用した活性化策を実施する。

（単位：千円）

No.	地域名	拠点名	事業概要	予算額
1	大曲	花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」	はなび・アムを中心とした周辺地域の交流人口の拡大及び賑わいを創出するための事業を実施	1,181
2	神岡	道の駅かみおか	道の駅を地域住民の活躍と経済活動の場として活用するための再整備と利用促進に向けた取組を実施	414
3	西仙北	大綱交流館	若者や女性のコミュニティ形成と交流を図ると共に、地元中学生、高校生と連携した事業の検討と取り組みを実施	607
4	中仙	道の駅なかせん	道の駅の特色づくりと「ドンパン娘」キャラクターやロゴを活用した事業を実施	1,486
5	協和	協和市民センター「和ピア」	「体験・学習・あそび・交流」事業の企画運営組織の設置と、各種体験事業を実施	467
6	南外	南外ふるさと館・南外民俗資料館・南外さいかい市	地域住民が繋がり合う「場所づくり」と「きっかけづくり」を促進するための事業を実施	500
7	仙北	仙北ふれあい文化センター（仙北ふれあい公園）	公園及び周辺地域に恒常的な賑わいを創出するため官民連携の取り組みを実施	18
8	太田	横沢公園エリア	「花と緑のまち」を体感することができる事業の実施	150

※拠点施設の改修及び関連事業については目的別に予算措置

合計 **4,823**

No.	地域	拠点施設	活性化の方向性	R 5 事業	R 5 予算 (関連事業含む)				
					予算科目 事業	個別事業名	実施担当課	内容	予算額
1	大曲	はなび・アム	①はなび・アムの機能を更に充実させ魅力向上を図り、来館者の増加と周辺エリアの活性化を促進させる ②はなび・アムを中心としたまちなかの魅力創出と周遊を促す仕組みをつくり賑わいを醸成させる ③誰もが花火を深く知り、学び、楽しむ機会を創出し、次世代花火師の育成と世界的な花火先進都市を目指す ④花火文化や歴史・偉人を学ぶ機会をつくり、郷土愛の醸成と共に新たな産業への波及、新価値の創出を図る ⑤はなび・アムを拠点とした取り組みの効果を大曲各地区・市内各地域へ波及させ、相乗効果を図る	①はなび・アム情報発信強化事業 ②まちナビカード設置事業 ③大曲歴史文化周知事業 ④若者起業支援事業 ⑤大仙市検定事業 ⑥開館5周年記念事業 ⑦花火関連体験型ワークショップ開発事業 ⑧花火に関する市民参加型事業	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	まちナビカード設置事業	地域活動 応援課	まちを周遊させるため、「食」「観光施設」「歴史」などのカードを設置し、はなび・アム周辺、各地区の周遊を促す。	912
						大曲歴史文化周知事業	地域活動 応援課	歴史・文化を周知するため、大曲史談会と連携し、歴史に関するまちナビカードを作成する。	269
					10.5.5.25 花火伝統文化継承資料館管理費	開館5周年記念事業	花火産業推進課 (はなび・アム)	開館5周年を記念して来館者に楽しんでもらえるイベントを開催する。	215
						花火に関する市民参加型事業	花火産業推進課 (はなび・アム)	花火に関する体験型ワークショップなどを開催し、自由な発想で花火の楽しさに触れ、花火を知る。 花火に関連した作品の制作や展示など市民参加型の企画を実施し、花火文化の醸成を図る。	65 50
2	神岡	道の駅 かみおか	①施設(駐車場を含む)の再整備を行い、地域住民の活躍の場とすると共に、経済活動の場として利用することにより、地域の原動力となるよう活用していく。 ②神岡塾立ち上げ事業 ④国道沿い樹木伐採事業	①地域作品展・情報発信コーナーの設置事業 ②長沼自然観察会(季節毎のイベント開催) ③神岡塾立ち上げ事業 ④国道沿い樹木伐採事業	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	地域作品展・地域情報発信事業	地域活性化 推進室	道の駅休憩所等にアースを設け、地域で活動する個人や団体の作品展示をすると共に、地域及び大仙市の観光情報を発信。	322
						長沼自然観察会(季節毎のイベント開催)	地域活性化 推進室	地域の有識者を講師に招いた長沼の自然観察会を開催。	92
					7.1.4.38 彩色千輪プロジェクト	国道沿い樹木伐採事業	市民 サービス課	国道沿いの樹木を伐採することにより、道の駅の視認性を高め、立ち寄ってもらえる道の駅を目指す。	1,083
3	西仙北	大綱交流館	①地域の活性化策について市政に反映させる場をつくることで、市と地域が協働で行う地域づくりを推進すると共に、若者や女性の交流の場を確保し、地域のにぎわいを創出する。 ②地域活性化に係るイベント等を通じて地域の若者が挑戦・活躍する場を提供することで人材育成に繋げる。	①にしせんワークショップの開催 ②地元中・高校生による地域活性化プレゼンの開催	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	にしせんワークショップの開催事業	地域活性化 推進室	R4若者地域交流ワークショップの参加者と、地域の活動団体が構成する実行委員会を設置し、活性化事業の企画・運営について検討・実行する。	457
						地元中・高校生の地域活性化プレゼン開催事業	地域活性化 推進室	中・高生目線で地域の現状と将来像について考え、地域の課題を見出し、活性化策・解決策についてプレゼン。地域の魅力をSNS等で発信するほかPRポスターを作成する。	150
4	中仙	道の駅 なかせん	道の駅なかせんが『人が訪れ、人が集う「楽しい」「美味しい」があふれる観光と交流の拠点』となることを目指す。 これを実現するため、次の5つの柱を掲げ、関係部署、各種団体、地域住民との協働による様々な事業と施設整備を実施していく。 ①地域の特色が詰まった、ここにしかない道の駅に ②美味しいものが買える、食べられる美食の道の駅に ③寄ってみたい、いつでも行きたい魅力あふれる道の駅に ④結びつき、交流が生まれる道の駅に ⑤地域に愛される住民誇りの道の駅に	①ドンバン娘キャラクター活用推進事業 ②ファサードサイン更新事業 ③モニュメント解体事業 ④地域の季節を巡る観光コースの設定事業 ⑤道の駅なかせん拠点構想推進委員会事業 ⑥なかせん桜まつりに「八乙女よさこい祭り」を追加 ⑦ジャンボうさぎ秋田大学共同研究事業	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	ドンバン娘キャラクター活用推進事業	地域活性化 推進室	ドンバン娘のキャラクターとロゴを活用し、地域の特色あるお土産品の開発や、道の駅内にキャラクターを活用した展示を取り入れる。	1,486
					7.1.4.38 彩色千輪プロジェクト	ファサードサイン更新事業	市民 サービス課	道の駅なかせんの施設名称看板を更新し外観イメージの向上を図る。	950
					2.1.11.11 地域振興事業費	モニュメント解体事業	市民 サービス課	道の駅なかせんの老朽化したモニュメントを解体する。	3,508
						なかせん桜まつりに「八乙女よさこい祭り」を追加	市民 サービス課	桜まつり期間に合わせて、地元のよさこいチーム「桜秀心舞」主催による、よさこい祭りを開催。	300
5	協和	協和市民 センター 「和ピア」	①世代間交流できる仕組みをつくることと共に、地域外の人と協和の住民とのコミュニケーションを図る機会を創出する。 ②子どもたちに、協和の文化や自然を生かした体験活動を提供することによって、生きる力や地域に対する愛着心を持ってもらう。 ③「和ピア」のアクセスの良さ、集客能力の高さなど立地を活かし、既存施設の活用方法及び改築等を調査検討する。	①「体験・学習・あそび・交流」事業の企画・運営に係る運営委員会設置事業 ②各種体験事業 ③「和ピア」を拠点とした活性化策実施に伴い必要となる施設改修等の検討	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	事業の企画・運営に係る組織づくり事業	地域活性化 推進室	事業実施のための運営委員会を設置し、「体験・学習・あそび・交流」事業の年間計画を立てて、企画・実践する。	250
						各種体験事業	地域活性化 推進室	フラワーアレンジメント、ヨガ、ニュースポーツ、しめ縄づくり、モノづくりなどの体験事業を実施する。	217

No.	地域	拠点施設	活性化の方向性	R 5 事業	R 5 予算（関連事業含む）				
					予算科目 事業	個別事業名	実施担当課	内容	予算額
6	南外	南外ふるさと館 南外民俗資料館 南外さいかい市	①自立してコンパクトな南外地域を実現させる ②子どもからお年寄りまで元気で安心な南外地域を実現させる ③自然豊かで人が集まる南外地域を実現させる	①施設案内看板のリニューアル事業 ②拠点3施設合同事業の実施事業 ③管内保育・教育機関と連携強化事業 ④「ミライワークショップ」×「拠点3施設」事業の実施事業 ⑤地域枠予算の活用促進による「集いの機会」拡充事業 ⑥SDGs実現に向けたたひづくり、まちづくりの推進事業	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	施設案内看板のリニューアル事業	地域活性化推進室	拠点3施設の一体性を表現・PRを図るため新設看板1カ所を実施する。	500
					2.1.11.11 地域振興事業費	拠点3施設合同事業の実施事業	地域活性化推進室	各施設の特性を生かした催事等の企画・実施する。	185
						管内保育・教育機関と連携強化事業	地域活性化推進室	地元小・中学生が企画・考案した事業を実施する。	194
						「ミライワークショップ」×「拠点3施設」事業の実施事業	地域活性化推進室	世代間交流を目的としたサロン事業を実施する。	50
						地域枠予算の活用促進による「集いの機会」拡充事業	地域活性化推進室	拠点3施設を活用した市民主導型地域枠予算事業の新規事業の企画・実施を支援する。	300
						SDGs実現に向けたたひづくり、まちづくりの推進事業	地域活性化推進室	持続可能社会の実現をテーマにした催事（フリーマーケットや講習会等）を企画・実施する。	106
7	仙北	仙北ふれあい文化センター（仙北ふれあい公園）	①公園及び周辺地域に恒常的な賑わいを創出するために民間の投資を促し、財政負担を軽減しながら地区公園の質と利便性の向上を図る。	①公募設置等計画評価基準策定事業	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	仙北ふれあい公園整備・管理運営事業	地域活性化推進室	R4に実施したサウンディング調査の結果を踏まえ、今後の事業展開や手法について検討・調整を行い、公募設置等管理指針の策定を行う。 また、事業者から提案された公募設置等計画の評価基準について、学識経験者より意見を聴取する。	18
8	太田	横沢公園エリア	①「花と緑のまち」を体感できる横沢公園の機能を強化し、子育て世代を中心に据えた新たなイベントの開催と、心と体の健康づくりで、笑顔あふれる花と緑のまちを実現する。	①イベントの実施	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	花のリストアール・リノベーション事業	地域活性化推進室	花を楽しむ公園として、地域住民等が参加して既存の花の修復、再生するイベントを実施する。	150